

環境教育関係事業について

1 はじめに

本市では、「札幌市環境教育・環境学習基本方針」（以下「本方針」という。）に基づき、環境教育・環境学習の取組を推進しています。

誰もが、これからもずっと安心して暮らしていくためには、一人一人が身近な環境について真剣に考えて、行動する必要があります。本方針は、今のことだけではなく未来のことも想像し、自分のことだけではなく周りにいるみんなのことを思い、そして、生き物同士のつながりなどの地球環境のことを真面目に考えて、やるべきことを自ら判断し、積極的に取り組む「環境市民」を、学びを通して増やすことを基本理念としています。

本方針の第4章には、人々が環境問題を理解し、環境保全の行動を進め、さらに多くの人に行動が広がるよう、札幌市が主体となって推進する四つの取組として「(1)学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進」、「(2)「環境人材」の育成」、「(3)環境教育・環境学習の場と機会の充実」、「(4)普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し」が示されています。

本資料では、環境局環境都市推進部環境政策課等が行う環境教育関係事業に係る令和6年度環境教育関係事業の実施結果及び令和7年度同事業の実施予定について、これら四つの取組に沿って報告します。

札幌市が主体となって推進する環境教育・環境学習に関する取組

札幌市環境教育・環境学習基本方針で定めた4つの取組

- (1) 学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進
- (2) 「環境人材」の育成
- (3) 環境教育・環境学習の場と機会の充実
- (4) 普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し

2 令和6年度環境教育関係事業の実施結果及び令和7年度同事業の実施予定について(環境都市推進部関係分)

(1) 学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進

子どもたちが、学校での授業や総合的な学習の時間等で学んだ環境問題を体系的・計画的に理解を深めることができるよう、地域や事業者、市各部局等と連携しながら子どもたち等への環境教育・環境学習の機会を提供します。

ア 環境副教材・教師用手引書

毎年度、市立小学校の新1、3、5年生の全児童に環境副教材を配布しており、それぞれ2カ年にわたって利用いただいています。また、併せて教師用手引書も作成しています。

より利用しやすい副教材・手引書とするために、「理科」「社会科」「家庭科」「生活科」「特別な教科道徳」の各担当教員によるワーキンググループを組織して毎年度、改訂作業を行っています。



昨年8月、ワーキンググループメンバーには「動物園における気候変動教育を考える教員ワークショップ」(主催：北海道地方ESD活動支援センター、円山動物園。動物園での気候変動を切り口とする環境学習の可能性を動物園職員とともに考え、環境副教材への反映を検討する場)にご参加いただきました。そこでいただいたご意見を踏まえ、令和8年度を目標とした環境副教材の電子化の検討を行うこととし、11月に各市立小学校教職員を対象にアンケートを実施したところです。全部で270件以上の回答があり、その多くが電子化に賛成の声であったことを踏まえ、今後具体的なあり方についてワーキンググループ会議を通じて検討していく予定です。
(参考資料1)

イ 環境教育へのクリック募金

インターネットを活用した環境教育への支援制度です。札幌市環境プラザのホームページ上で、協力企業(現在は7社)の環境活動を紹介しており、閲覧数に応じた金額(1クリック5円、月額上限2万円/社)を協力企業からご寄附いただき、それを原資に環境教育教材を購入し、希望する小中学校へ

寄贈しています。

令和6年度は、令和5年度のクリック実績に応じて、協力企業様から合計168万円ご寄附を頂きました。1校当たりの寄贈額の上限を3万円とし学校に呼びかけた結果、希望する計57校全てに手回し発電機、気体検知管、トマトやキュウリ等の野菜の苗などを寄贈することができました。



寄附金額にまだ余裕があったため2次募集を行った結果、希望校37校のうち抽選で19校に環境教育教材を追加で寄贈しました。

今年度は、昨年度の状況に鑑み1校当たりの寄贈額の上限を3万5千円とした結果、前年を上回る93校の応募があり、寄附金額を大きく超過したことからやむなく抽選により67校に寄贈することとしました。今後、順次寄贈を行う予定です。

なお、クリック募金のホームページ上には、寄贈された環境教育教材が各学校においてどのように活用されたのかを「事業報告書」として紹介しています。(参考資料2)

ウ エコライフレポート

子どもたちが声掛け役となって、家庭におけるエコ行動を促す取組として、平成19年度にスタートした事業です。

夏休み及び冬休みの前に、市立小中学校の全児童・生徒に対して、家庭で取り組むエコ行動を選んで実践できるチェック表を配布します。

令和6年度は「未来の地球のために取り組もう！」をキャッチフレーズとして、節電や節水、リサイクルなどに取り組んでもらう内容としました。

また、学校単位で子どもたちの取組結果を二酸化炭素削減効果に換算（冬休み分からレポート等の印刷や、振り返りシート入力に伴い発生したCO₂の量を差し引いて計算）し、これを記した「認定証」を配布しており、子どもたちが自ら考えて実践した取組の中でユニークなものについては、認定証の中に「他にもこ



んな取組をしてくれました」という欄を設けて紹介しています。

今年度の夏休み分は、小学生向けには引き続き「未来の地球のために取り組もう！」をキャッチフレーズとして、サステナ KIDS AWARD（後述）で優秀な賞を獲得した小学生のアイデアやイラストを織り交ぜながら自然体験や食品ロス防止などに取り組んでもらう内容にしました。一方、中学生向けについては、地球温暖化についてより深い学びをできるよう、デザインや内容を一新しました。

なお、令和4年度からは、紙のエコライフレポートを各学校で回収・保管し、環境局において集約・集計するという一連の事務作業の負担を軽減するため、教育委員会と協議し、一人一台配布されているタブレットのウェブアプリケーション「Google フォーム」を使用し、各児童・生徒がタブレットに取組結果を入力してもらう形式に変更しております。実施当初は、学校での操作不慣れなどの理由により取組率が大幅に低下してしまいましたが、その後、各学校への入力方法変更の周知が一定程度進んだことにより、取組状況が改善しました。また、昨年度は、各児童・生徒によるタブレットへの入力漏れを防ぐため各学校あてに各児童・生徒への声掛けをお願いした結果、令和5年度に比べて取組率を改善させることができました。（参考資料3）

〔児童・生徒の取組状況〕

年度	取組学校数〔校〕		児童・生徒数〔人〕		取組人数〔人〕		取組率〔%〕	
	夏	冬	夏	冬	夏	冬	夏	冬
令和2年度	295	298	132,842	133,133	124,874	124,977	94.0	93.9
令和3年度	296	296	133,335	133,335	125,221	123,329	93.9	92.5
令和4年度	297	273	132,541	123,064	108,614	105,814	81.9	85.9
令和5年度	293	296	130,679	131,240	111,685	112,981	85.5	86.1
令和6年度	296	296	130,776	130,776	112,423	113,359	86.0	86.7

エ 校外学習用バス手配

環境に関する体験学習の場の提供を目的に、市内小中学校を対象に校外学習用バスの手配事業を行っています。

学校現場のニーズなどを踏まえ、平成28年度から市外近郊や民間施設も見学対象施設に加えて、太陽光発電や風力発電の設備、LNG（液化天然ガス）基地などを校外学習モデルコースに組み込みホームページで紹介しているほか、各学校が独自に希望する見学先についても対応しています。

令和6年度は、令和5年度にバス台数や運転手の不足等から、応札するバス会社がおらず入札不調となった反省を踏まえ、学校への希望調査時期を早めたとともに、新たに旅行業者を入札参加資格者に加えた結果、無事に落札となり、応募があった60校中、抽選により選ばれた27校が利用いたしました。

今年度も無事にバスを確保することができ、応募があった68校中、抽選により選ばれた32校が利用する予定です。(参考資料4)

[バス貸出実績推移]

	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度 (予定)
応募校数	29 校	57 校	94 校	60 校	68 校
利用校数	29 校	35 校	7 校	27 校	32 校
バス利用台数	94 台	114 台	12 台	59 台	64 台

※ 校数・バス利用台数は延べ数。

※ 令和5年度は新型コロナウイルス5類移行に伴うバス不足等の影響から規模を縮小して実施。

[主な見学先(令和6年度)]

見学先	見学校数(延べ)
水道記念館	8 校
下水道科学館	6 校
円山動物園	5 校
白石清掃工場	4 校
発寒清掃工場	3 校
リサイクルプラザ	2 校
豊平川さけ科学館	2 校

オ 学校での出前講座の実施

札幌市では、市民への情報提供と対話の一環として、市職員が依頼に基づいて地域に出向き、所管事業について分かりやすく説明を行う「出前講座」を実施しています。

SDGs の普及や地球温暖化・気候変動への関心の高まりなどから、学校における総合学習などの授業の一環として活用されています。

〔SDGs、地球温暖化・気候変動に係る出前講座・授業等実績〕

	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
小学校：件数 (参加人数)	2 件 (180 人)	5 件 (351 人)	4 件 (214 人)	6 件 (298 人)	6 件 (538 人)
中学校：件数 (参加人数)	6 件 (1,033 人)	8 件 (1,202 人)	4 件 (798 人)	9 件 (561 人)	5 件 (105 人)
高等学校：件数 (参加人数)	2 件 (40 人)	4 件 (365 人)	5 件 (960 人)	3 件 (50 人)	2 件 (24 人)
合計：件数 (参加人数)	10 件 (1,253 人)	17 件 (1,918 人)	13 件 (1,972 人)	18 件 (909 人)	13 件 (667 人)

カ 環境に関する全園・全校の取組【教育委員会】

教育委員会では、「環境首都・札幌」の宣言日である 6 月 25 日を契機に、全ての市立園・学校がエコスクール宣言校として、環境に関わる取組（エコアクション）を重点的に見つめ直す「さっぽろっ子環境ウィーク」期間を設定しています。各園・学校において、課題探究的な学習や自治的な活動の中にエコアクションを位置付けながら、年間を通して、札幌市の幼児児童生徒に環境を守り育てようとする態度を育んでいます。

今年度も引き続き「さっぽろっ子環境ウィーク」を実施します。各園・学校において、市立高校の生徒が作成した動画の視聴や、これまでの環境に関する取組の見直しなどを通して、環境に関わる問題について考え、取り組んでいく予定です。（参考資料 5）



「シマエナガちゃんとまなぼうっ！！」より



小中学校、地域が連携した清掃活動の様子

取組（１）学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進に係る

本市における実施状況

※ 令和 6 年度版「環境教育・環境学習ガイド」（参考資料 6）を基に集計。
以下、（２）～（４）の各項において同じ。

実施事業分野：学校等における自然体験学習・環境教育教材などの提供・
教員向けの研修の実施

実施事業数：13 事業（環境局・教育委員会・建設局・まちづくり政策局）

＜事業例＞【さっぽろ学校給食フードリサイクル(教育委員会)】

学校給食の調理くずや食べ残しを利用した堆肥で育てた作物を給食に取り入れたり、堆肥を活用した栽培活動等に取り組んだりしながら、フードリサイクルの目的や地産地消、食べ物等の大切さについて学ぶ。

（２）「環境人材」の育成

自然体験活動などを行っている人や特に優れた環境保全活動を行っている専門家の情報を収集し、活動の質の向上を支援したり、これらの人々の活躍の場を増やしていきます。

ア 環境保全アドバイザー・環境教育リーダー派遣【環境プラザ】

市民団体、町内会、学校などに対して、環境に関するアドバイザーやリーダーを派遣する制度です。

「札幌市環境保全アドバイザー派遣制度」は、地球環境、自然保護、リサイクル、ごみ問題等など、様々な環境分野の研修会や学習会等に専門家を派遣する事業で、令和 7 年 4 月 1 日現在、8 人のアドバイザーに登録いただいています。

「札幌市環境教育リーダー派遣制度」は、主として野外での活動を通して、植物、野鳥、昆虫、水生生物などの自然観察会や地球温暖化、ごみ、エコライフ分野の指導者や解説者を派遣する事業で、令和 7 年 4 月 1 日現在、24 人のリーダーに登録いただいています。

例年、川での自然観察といった自然体験活動の分野での派遣実績が多く、依頼全体の半数以上が川活動となっております。川派遣が集中するのは 7 月から 8 月にかけてがピークとなっており、講師の調整がつかず依頼を受け

かねるケースもあるほどでした。小学校の授業や幼稚園・保育園での依頼が多く、子ども向けの活動が主になることから、安全管理面でも留意する事柄が多く、講師のみなさまと依頼内容を注意深く共有しながら、利用者の希望に寄り添った環境活動を整えていけるよう、継続した支援を行っていきたいと考えています。

[派遣実績]

	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
環境保全アドバイザー 派遣件数 (参加人数) <登録者数>	17 件 (304 人) <11 人>	15 件 (327 人) <11 人>	18 件 (479 人) <10 人>	27 件 (1,204 人) <9 人>	21 件 (1,053 人) <8 人>
環境教育リーダー 派遣件数 (参加人数) <登録者数>	32 件 (798 人) <29 人>	36 件 (833 人) <28 人>	64 件 (1,463 人) <26 人>	59 件 (1,424 人) <23 人>	49 件 (1,176 人) <28 人>

イ こどもエコクラブ【環境プラザ】

環境プラザは、公益財団法人日本環境協会が実施するこどもエコクラブの札幌市内における事務局を担っており、こどもエコクラブへの登録団体及びこれから環境に関する活動を始めようとする団体への情報提供を行っています。また、年に一度開催しているこどもエコクラブ交流会を令和6年12月21日（土）に札幌市円山動物園での開催をいたしました。市内で活動するエコクラブ3団体と共に、円山動物園協力のもとバックヤードでの見学とクラブ間の交流を行いました。

環境プラザが主催する「さっぽろあそエコ団」では、小学生向けに川や海、そして山といったフィールドで自然体験活動を行い、環境保全について考える機会を提供しました。令和6年度は、その取り組みを「さっぽろこども環境コンテスト」で評価いただき、最優秀賞をいただいたことから、札幌市長の前で活動の報告を行う機会がありました。

ウ 指導者向け研修【環境プラザ】

令和6年度は、北海道立総合研究機構の森林研究本部と連携し、道産の未利用材である桐を切り口とした講話や、その未利用材を活用した昆虫標本づくりのパッケージプログラムの体験会を実施しました。体験プログラムがも

たらず効果についても、講師よりお話をいただいたことから、参加者からは実践機会を作りたいと、前向きな感想を聞くことができました。

エ 環境教育・子どもワークショップ

これからの未来を担う子どもたちが、地球環境を意識して生活する心を育み、自発的な行動につなげるきっかけとなることを目指し、令和2年度から「環境教育・子どもワークショップ」を開催しています。

昨年度は、令和7年2月22日（土）及び3月8日（土）に、各日5か所ずつ、計10か所の児童会館に通う小学生を対象として開催しました。

ワークショップは、本部のメインファシリテーターから児童会館の各会場にオンラインでプログラムを配信し、各会場では現地のファシリテーターの誘導により子どもたちが対面によりコミュニケーションを取るとともに、オンラインで各会場とも意見交換するなど、オンラインと対面をミックスして行いました。



併せて、環境教育に興味があり、ワークショップ等のスキルを身につけたい高校生・大学生などの若い世代の人材育成にも同時に取り組むこととし、希望する若者を対象にファシリテーター等の養成研修会を実施し、子どもワークショップの運営スタッフの一員として活動してもらいました。

今年度も引き続き開催する予定です。（参考資料 7）

オ 教員に向けた研修【教育委員会】

教育委員会では、札幌市の学校教育に携わる教職員の資質向上と専門的な力量を高めることを目的に、「SDGsの基礎」や「環境教育に役立つ施設活用」など環境教育に関する専門的研修を実施し、昨年度は延べ130人以上の教員が受講いたしました。

今年度も、「学校教育に生かすSDGsの考え方」や「環境教育へ役立つ施設の活用～円山動物園①体験編」、「環境教育へ役立つ施設の活用～円山動物園②授業づくり編～」の専門研修において、講義・演習に加え、施設にお

ける体験活動を通して深めた理解を授業づくりにつなげることで、より日常の教育活動に生かすことが可能な研修を実施いたします。

取組（２）「環境人材」の育成に係る本市における実施状況

実施事業分野：専門家派遣制度の活用や人材育成

実施事業数： **4事業**（環境局）

＜事業例＞【さっぽろ気候変動タウンミーティング（環境局）】

気候変動をはじめとする社会課題について話し合ったり専門家からの学びを得たりしながら参加者同士がつながることができるワークショップを実施。

（３）環境教育・環境学習の場と機会の充実

学校等以外で行われる環境教育・環境学習を支援するため、環境関連施設等の充実を図ります。また、イベント等での普及啓発に加え活動の表彰などを通じて、環境教育・環境学習の活性化を支援します。

ア 学習支援等【環境プラザ】

環境プラザ見学者への展示解説や展示物を利用した見学者向け環境教育プログラムの実施、教材の貸し出しなど、利用者の要望に合わせた学習支援を行っています。

見学ツアーのパンフレット更新を令和６年度末に行い、令和７年度の見学受け入れ数の増加をねらった広報を行っています。

イ 各種講座等の実施【環境プラザ】

北海道大学の学生が活動する「北大森林研究会」や「（一社）楽子森」と連携して、木工に関連したワークショップを実施した他、猛禽類のパネル展を実施した際に資料提供の協力をいただいた「猛禽類医学研究所」のスタッフによる、保護活動や研究員の取り組みに関する理解を深める機会とした講座を実施するなど、様々な団体の皆様と連携し各種講座を実施いたしました。

ウ さっぽろこども環境コンテスト

小中学生が日頃、環境のために取り組んでいる活動を発表するコンテストとして、平成20年度から実施しています。活動の発表を通じて、周囲の子どもたちのほか、大人たちにも活動の輪を広げていくことを目的としています。

昨年度は、エルプラザ公共4施設において、会場でのステージ発表を実施しました。また、当日の児童・生徒の引率が難しい学校等に配慮し、発表の様子を事前収録し、当日会場で公開するという取組を行いました。コンテストの開催周知を早期に開始したことや、出場団体の募集期間を長めに確保したこと等により出場団体数の増につながりました。

今年度のコンテストについては、令和7年12月6日(土)に実施予定で、各学校・団体に対する開催周知に努めているところです。

なお、昨年度最優秀賞を受賞した学校・団体については、令和7年1月22日(水)の「さっぽろこども環境コンテスト 2024 市長報告会」において、秋元市長の前で発表していただきました。また、長年にわたり環境の取組を継続して実施し、その成果を毎年コンテストで発表してくれた2団体(旭山自然調査隊、米里中学校科学部)につきましては、令和7年6月5日に「環境保全活動功労者」として北海道知事より表彰されました。(参考資料8)

[令和6年度発表団体] ◎：最優秀賞 ○：優秀賞 ☆：クリック募金特別賞
網掛けは初出場又は過去5年以内の出場がなかった団体

学校外団体の部	小学校の部	中学校の部
○旭山自然調査隊	☆厚別西小学校5年生 (事前収録)	☆開成中等教育学校 Bio (事前収録)
☆金山児童会館	☆美しが丘小学校6年生 (事前収録)	◎西野中学校 特別支援学級
◎さっぽろあそエコ団	◎栄町小学校	○米里中学校科学部
☆富丘児童会館 (事前収録)	○北光小学校	

特別発表：市立札幌藻岩高等学校 MSP

審査員長	北海道大学文学研究院 教授	大沼 進 氏
審査員	北翔大学短期大学部 教授	石澤 優子 氏
審査員	市立札幌藻岩高等学校 学校長	野口 浩史 氏
審査員	札幌市環境局環境都市推進部長	西村 一郎



エ 若者との共創プロジェクト「サステナKIDS AWARD」

令和5年4月開催のG7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合を契機に連携することとなった、渋谷を拠点に活動する（一社）SWITCHとの共催で「若者共創プロジェクト」の取組を実施しています。昨年度は、第1回の「サステナKIDS AWARD 札幌 2025」という形で、小学生～高校生を対象に、企業・団体の課題に対してのアイデアをマンガ形式などで応募してもらい、課題を提出した各企業・団体や、秋元市長をはじめとした特別審査員により審査する事業を実施しました。

応募総数 658 作品の中から選出された 47 作品については、令和7年3月15日（土）に西の町いこいの駅 Route148（いしや）にて行われた表彰式で表彰しました。



第1回表彰式の様子
（特設 HP 掲載の報告書より引用）

今年度も、第2回の「サステナKIDS AWARD」を行うべく、準備を進めているところです。（参考資料9）

取組（3）環境教育・環境学習の場と機会の充実に係る本市における実施状況

実施事業分野：環境関連施設の充実化や連携推進／普及啓発イベント／
取組の発表・表彰／消費者教育等を通じた環境教育／
市民向け講座／まちづくり・美化・緑化活動等／
参加型調査・観察会等 など

実施事業数：112事業（環境局・市民文化局・保健福祉局・子ども未来局・
建設局・水道局・下水道河川局・各区・教育委員会）

<事業例>

【円山動物園教育推進事業（環境局）】

園内外における情報発信や学習プログラム提供を通じ、動物の生息域で起きている環境問題や環境保全の重要性について理解してもらう。

【自然観察会（建設局）】

公園等で市民を対象とした自然観察会を実施。

【アダプト制度（各区）】

地域の団体・企業が行う道路清掃等の環境美化活動を支援。

(4) 普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し

家庭・学校・地域・事業者等の各主体における自主的な環境活動が円滑に行えるよう、関連情報を取りまとめ効果的に情報提供を行うほか、広報活動等を通じて市民一人一人が環境配慮行動を自発的に行えるような後押しを行います。

ア 環境プラザホームページ等【環境プラザ】

環境プラザでは、講師派遣や貸出教材、事業などについてホームページで情報提供を行っている他、フェイスブック、Instagram での投稿や情報発信を行っています。

[ホームページアクセス件数]

	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
環境プラザHP	103,999	106,612	97,369	90,460

イ 「環境中間支援会議・北海道」の取り組み【環境プラザ】

「環境中間支援会議・北海道」は、行政や地域など、様々な組織との間に立って、情報提供やアドバイス、コーディネート等のサポートを行う会議です。環境省北海道環境パートナーシップオフィス（通称：EP0 北海道）、公益財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザが連携して、北海道内における様々な環境活動の支援を行っています。

また、環境省北海道地方環境事務所、北海道、札幌市もオブザーバーとして、定期的に参加される会議に参加しています。

なお、ホームページ「環境☆ナビ北海道」において、環境に関するイベント情報等を配信しています。

ウ 環境広場さっぽろ 2025 の開催

「環境広場さっぽろ」は、子どもたちを主たる対象に、環境教育を目的とした「みらいを想う総合環境イベント」です。平成 30 年度以降は札幌ドームを会場に開催しております（令和 2・3 年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、札幌ドームをモデルとした仮想空間を会場とするオンラインイベントとして開催。また、令和 5 年度は、G7 札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合実行委員会主催事業「環境広場ほっかいどう 2023」として開催）。

今年度は、令和7年7月26日（土）、
27日（日）の日程で、大和ハウスプレミ
ストドーム（札幌ドーム）で開催します。



〔環境広場さっぽろ(令和5年度は環境広場ほっかいどう)の来場者・出展者推移〕

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
来場者数	—	—	15,234人	56,199人	18,111人
オンライン来場者数 (アクセス数)	19,806人	10,993人	6,036人	7,268人	—
出展企業・団体数	212件	197件	217件	161件	187件

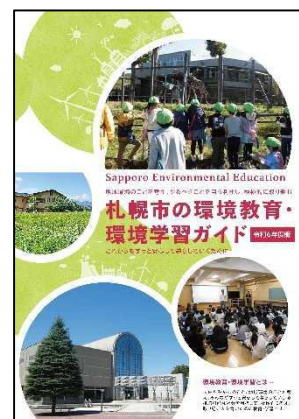
※令和2・3年度は仮想空間によるオンラインイベントとして開催。

※令和4・5年度は会場におけるリアルイベントと仮想空間によるオンラインイベントとの併用により開催。

エ「環境教育・環境学習ガイド」の発行

「札幌市環境教育・環境学習基本方針」に基づき、
環境問題の理解促進や環境保全行動の推進に向けて、
札幌市の各部局が行っている取組をまとめた「環境教
育・環境学習ガイド」を毎年度発行しています。

学校や市民への広報、情報提供を行い、各取組への
市民参加を促進し、環境教育・環境学習の一層の推進
を図ります。



併せて、札幌市各部局の環境教育・環境学習に対する意識を高め、基本方
針の趣旨に沿った事業展開を促します。(参考資料4・既出)

取組（4）普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押しに係る 本市における実施状況

実施事業分野：市民生活における環境配慮行動の促進

実施事業数：8事業（環境局・総務局・水道局・西区）

＜事業例＞【広報さっぽろ全市版製作（総務局）】

環境を守るために家庭で取り組めることや市内の気候変動の状況などを誌面で
紹介。